

科 音楽史 (全専攻) 2枚のうちの1枚目	受験生記入欄			(ア)	(イ)
	科 専攻	声種： 楽器：	受験番号 番		

以下の4系列のうち、各自入学願書提出の際に選んだ系列の、各3問題中から2問題を選んで答えなさい。なお音楽文化学専攻の受験生は、4系列12問題中から自由に2問題を選んで答えること。

解答には必ず1問題ごとに解答用紙1枚ずつを用い、各解答用紙の冒頭に選択した問題の記号(A1、B2、B3など)を明記すること。

◎声楽を中心とする音楽史

- A1 歌唱と朗唱の境界線をめぐって歴史的にどのように考えられてきたかについて、具体例を挙げながら論じなさい。
- A2 作曲家が特定の歌手のために特定の役柄を書く、いわゆる「当て書き」の例を、異なる時代から2例挙げ、詳しく説明しなさい。
- A3 以下から5項目を選んで説明しなさい。
- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| (1) 応唱詩編唱 | (2) シューベルト《糸を紡ぐグレートヒェン》 |
| (3) ストラヴィンスキー《兵士の物語》 | (4) ジョン・ダウランド (1563-1626) |
| (5) B. A. ツィンマーマン《兵士たち》 | (6) 通作ミサ曲 |
| (7) モーツァルト《イドメネーオ》 | (8) ルソン・ド・テネブル |
| (9) ローマ楽派 | (10) 山田耕筰《黒船 一夜明け》 |

◎鍵盤を中心とする音楽史

- B1 鍵盤音楽のために書かれた「ファンタジー」の歴史的発展について述べなさい。
- B2 19世紀以降の鍵盤音楽で過去の音楽の影響が顕著な作品をいくつか挙げ、それらの特徴を挙げなさい。
- B3 以下から5項目を選んで説明しなさい。
- | | |
|--|------------------------------|
| (1) C. M. v. ヴェーバー《コンツェルトシュテュック》へ短調作品 79 | (3) シェーンベルク《三つのピアノ曲》作品 11 |
| (2) オルガンのためのサンフォニー | (4) J. S. バッハ《クラヴィーア練習曲集》 |
| (5) C. Ph. E. バッハ《プロイセン・ソナタ集》 | (6) バルトーク《2台のピアノと打楽器のためのソナタ》 |
| (7) ベートーヴェン《ピアノ・ソナタ「テンペスト」》作品 31 の 2 | (8) S. シャイト《タブラトゥーラ・ノーヴァ》 |
| (9) ドビュッシー《練習曲集》 | (10) ピアノの内部奏法 |

◎管弦打楽器を中心とする音楽史

- C1 1780～1790年代のハイドンと1780年代のモーツァルトの交響曲を比較して論じなさい。
- C2 音楽史上「特殊奏法」を使用した作品について、具体例を挙げながら、それらがどのような音響を創造したのか述べなさい。
- C3 以下から4項目を選んで説明しなさい。
- | | |
|---------------------|----------------------|
| (1) イタリア風序曲 | (2) 新古典主義の様式によるバレエ音楽 |
| (3) シューベルト《ピアノ三重奏曲》 | (4) バッターリア |
| (5) フランス国民音楽協会 | (6) リゲティ《メロディーエン》 |
| (7) リスト《前奏曲》 | |

科 目	受 験 生 記 入 欄			(ア)	(イ)
	科 専攻	声種： 楽器：	受 験 番 号 番		
音楽史 (全専攻) 2枚のうちの2枚目					

◎日本・東洋を中心とする音楽史

- D1 日本・東洋において、一つの楽器に対して複数の記譜法が存在する例を挙げ（ただし五線譜は除く）、それぞれのシステムの違いを説明しなさい。
- D2 日本・東洋の伝統音楽において、指揮者を置かずにアンサンブルを成立させるために演奏の場でどのような工夫が行われているか詳しく記述しなさい。
- D3 20世紀において、録音技術の発達が日本・東洋の音楽の伝承、普及、創作、変容に及ぼした影響について、具体的な例を挙げて論じなさい。